

エルサルバドル政治経済月報

(2025 年 4 月)

2025 年 4 月
在エルサルバドル大使館

内政

1. サーフシティ 2 計画のオープニング式典の開催（大統領 SNS 他）

4 月 3 日、ブケレ大統領は、ウスルタン県東ウスルタン市フクアラン区において、サーフシティ 2 計画のオープニング式典に出席、太平洋空港を含むサンミゲル県からウスルタン県を結ぶ全長 13km、自転車道や照明、展望台を備えたこの道路の開通を機として、東部地域開発に資するサーフシティ 2 計画の開始を発表した。

外交

1. 米国からの送還者キルマル・アブレゴ氏を巡る動き（報道：主要各紙及び米イリノイ州知事プレスリリース）

(1) 4 月 1 及び 2 日、トランプ米政権は、米国からの送還者のうち、「強制送還保留」の資格があるにも関わらずエルサルバドルに強制送還されたメリーランド州在住のエルサルバドル人（キルマル・アブレゴ氏）につき、手続き上のミスで送還されたことを認めつつ、同人がギャングメンバーである証拠もあると主張した。

(2) 4 月 16 日、米上院外交委員であるヴァン・ホーレン上院議員（民主党、メリーランド州選出）がエルサルバドルを訪問し、ウジョア副大統領と会談した後、GECOT からサンタアナの刑務所に身柄が移送されたとされるアブレゴ氏と首都のホテルで面会した。

(3) 4 月 20 日、4 名の米下院議員（ロバート・ガルシア議員、マクスウェル・フロスト議員、ヤサミン・アンサリ議員、マキシム・デクスター議員）がエルサルバドルを訪問。これは、公式派遣ではなく、個人的な訪問という形で行われ、GECOT 訪問やアブレゴ氏との面談は実現しなかった。

(4) 4 月 23 日、米イリノイ州知事室は、トランプ政権によるアブレゴ氏に対する米国への帰国を促す米国最高裁判所命令への抵抗をエルサルバドルが支援していることに関し、エルサルバドルに対する①年金基金のエルサルバドルの関与の調査、②エルサルバドルからの調達停止、③エルサルバドルとの貿易の分析の措置に関するプレスリリースを発出した。

2. 米国によるエルサルバドル安全情報引き下げ（大統領 SNS 他）

4 月 8 日、ブケレ大統領は、自身の SNS にて、米国のエルサルバドルに対する安全情報が最も安全なレベル 1 に引き下げられたと発信した。同日、ルビオ米国務長官もブケレ大

統領の治安対策を評価して、渡航情報を更新した旨投稿した。当地報道は、エルサルバドルが、日本、ニュージーランド、フィンランド、アイスランド、アイルランド、ノルウェー、韓国等と同様に安全と見なされたことを評価した。

3. ブケレ大統領の米国訪問（大統領府 SNS 他）

(1) 4 月 14 日、米国公式訪問中のブケレ大統領は、トランプ大統領と会談。会談には、米国側よりバンス副大統領、ルビオ国務長官、ボンディ司法長官、ノーム安全保障長官及びミラー大統領次席補佐官、エルサルバドル側より、メディーナ大統領府広報官、ヒル外務大臣、マヨルガ駐米大使、ビジャトロ司法・公共治安大臣、メリーノ国防大臣、ハンナ大統領補佐官らが同席した。

(2) エルサルバドル大統領府は、トランプ大統領によるブケレ大統領の治安対策への評価や犯罪防止における協力への感謝の発言を発信し、両大統領の蜜月関係をアピールした他、米ホワイトハウスは、ブケレ大統領による外国人テロリストのエルサルバドルへの送還への支援協力を強調した。

(3) ビジャトロ司法・公共治安大臣とノーム安全保障長官は、エルサルバドルが米国のグローバルエントリープログラムに加入するための協定に署名した。

4. ブケレ大統領からマドゥーロ・ベネズエラ大統領に対する収監者交換の提案（大統領 SNS）

4 月 20 日、ブケレ大統領は、マドゥーロ・ベネズエラ大統領に対し、国内に収監されている米国から強制送還されたベネズエラ国民と、ベネズエラ国内で拘束されている多国籍の政治犯の交換を提案する文章を自身の SNS に投稿した。また、同 22 日、ブケレ大統領は、エルサルバドル外務省が本提案に関してベネズエラ外務省宛に発出した口上書の写真とともに、マドゥーロ大統領に対する収監者交換を再度提案した。

5. ローマ教皇崩御に伴うブケレ大統領夫妻の哀悼の意（大統領府 SNS）

4 月 21 日、大統領府はローマ教皇フランシスコ台下の崩御に関し、ブケレ大統領夫妻による追悼の意を SNS に投稿した。

経済

1. 外国貿易障壁報告書 2025 レポートの発表（USTR）

3 月 31 日、米国通商代表部（USTR）は 2025 年外国貿易障壁報告書（NTE レポート）を発表。エルサルバドルへの輸出に係る主な非関税貿易障壁として、通関及び検疫手続きの煩雑さ、政府調達入札への参加の困難さ、データローカライゼーション規制等を挙げた。

2. スペイン・アルマラス原子力発電所視察及び原子力エネルギー協定の締結（報道：主要各紙）

4月3日～4日、アルバレス経済省エネルギー・炭化水素・工業局 (DGEHM) 局長兼エルサルバドル原子力計画実施機関 (OIPEN: DGHEM 所管) らは、スペインのアルマラス原子力発電所を視察したほか、スペイン原子力安全委員会 (CSN) と原子力エネルギー協定を締結した。

3. 最低賃金引上げ案の発表（大統領 SNS）

4月25日、ブケレ大統領は自身の SNS にて、本年6月からの12%の最低賃金引上げ案を全国最低賃金評議会 (CNSM) に提出したと発表。農業では月額243.50ドルから272.72ドル、マキラでは月額359.16ドルから402.26ドル、工業及び商業・サービス業では365.00ドルから408.80ドルに引上げとなる。最低賃金は、当国労働法により3年毎の見直しが規定されているが、2021年より引上げが見合わせとなっていたもの。

4. IMF による EFF プログラムの進捗状況（IMF プレスブリーフィング）

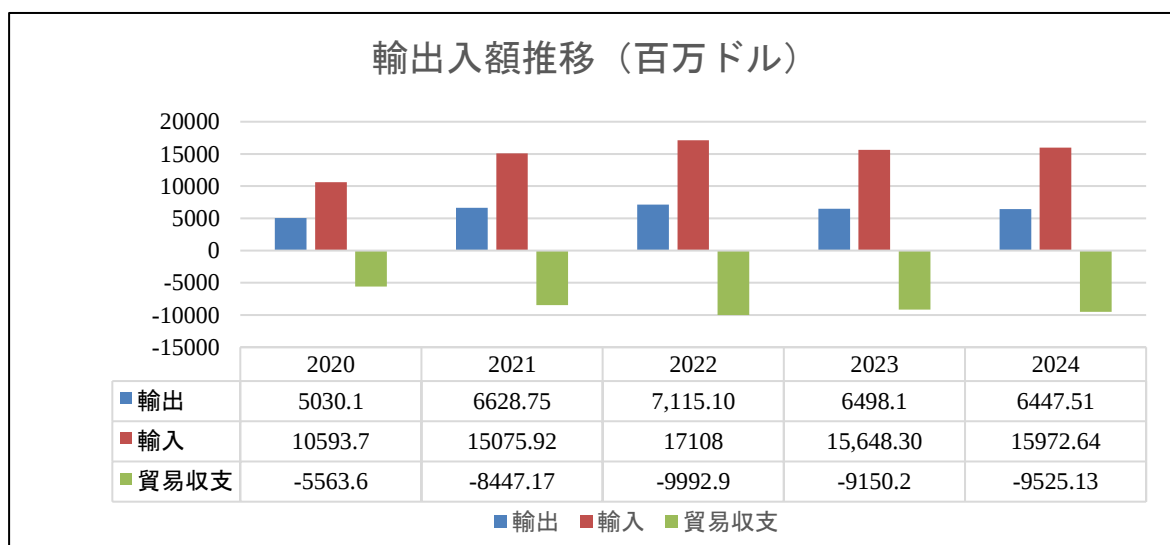
4月26日、バルデス IMF 西半球局長はプレスブリーフィングにおいて、エルサルバドル支援プログラムの進捗状況に関し、「エルサルバドルは、財政部門全体でビットコインを蓄積しないという IMF が求めるコミットメントを引き続き遵守している」と述べた。加えて、対エルサルバドル支援プログラムは、ビットコインに限らず、ガバナンスや透明性といった面でのより深い構造改革であり、これには大きな進展がみられる」とした。

5. Fitch 社による格付評価「B-」での据え置き（Fitch 社）

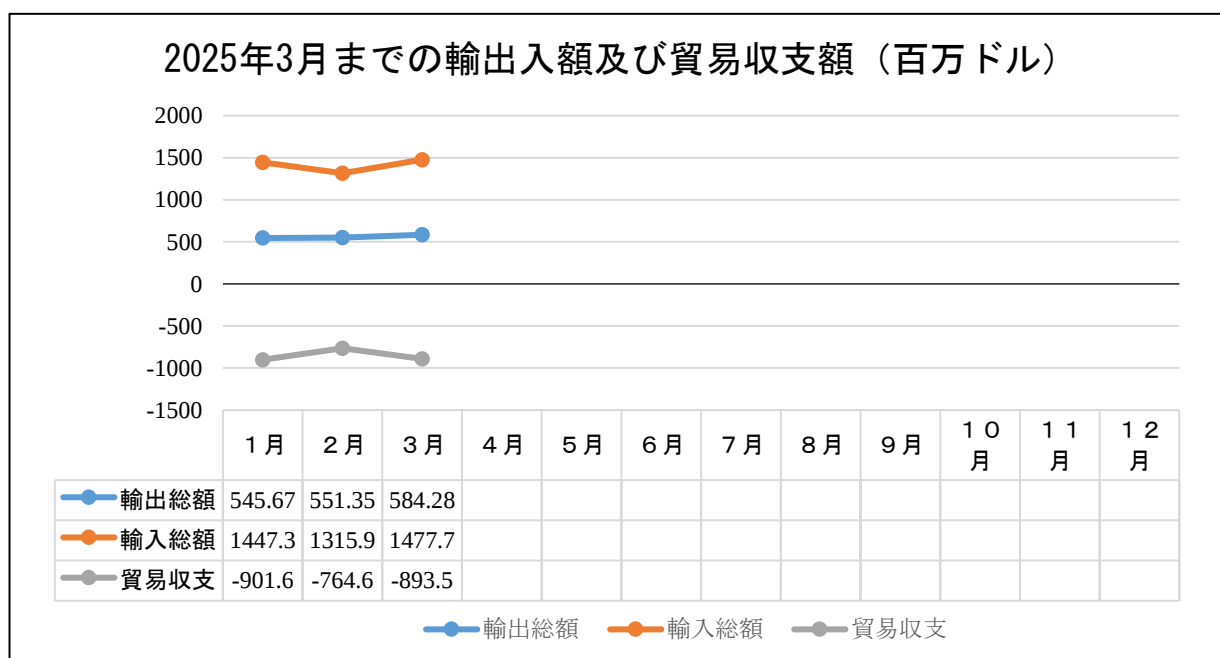
4月30日、格付会社 Fitch 社は、当国の信用格付及び経済情勢に係るレポートを発表し、外貨建て長期債格付を「B-」、見通しを「安定的」のまま据え置いた。IMF プログラムによる流動性確保と構造改革、好調な観光、主にインフラ・産業開発における海外直接投資が期待される一方、リスクとして高水準の公的債務、米新政権による関税の影響及び郷里送金の減少を挙げた。

6. 貿易総額

2024 年の輸出総額は 64 億 4,4751 万ドル（前年比 0.8%減）。輸入総額は 159 億 7,264 万ドル（前年比 2.1%増）となった。



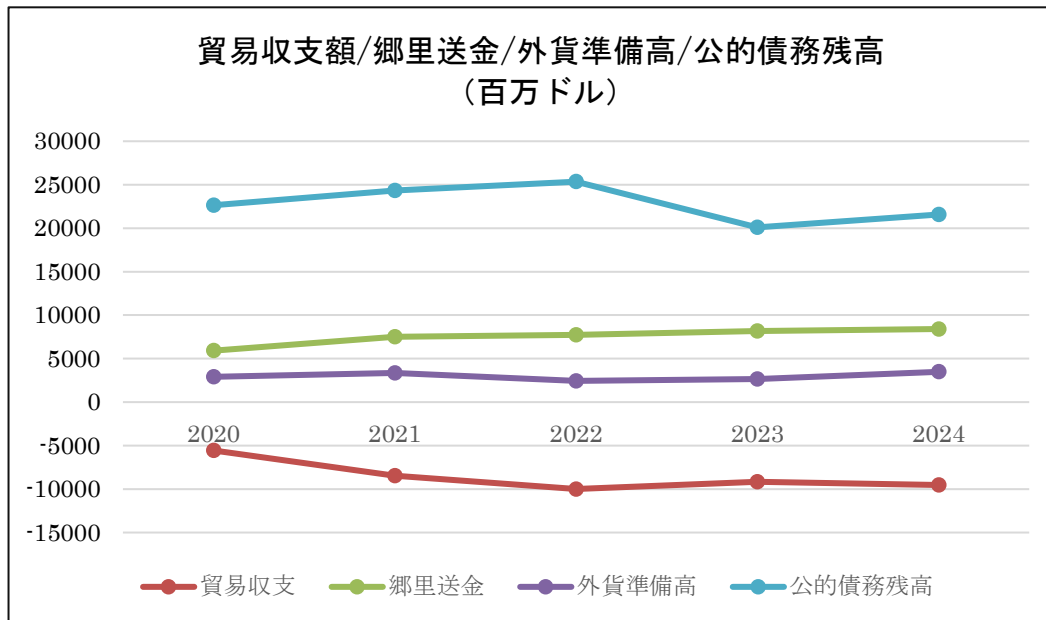
（エルサルバドル中銀データをもとに作成）



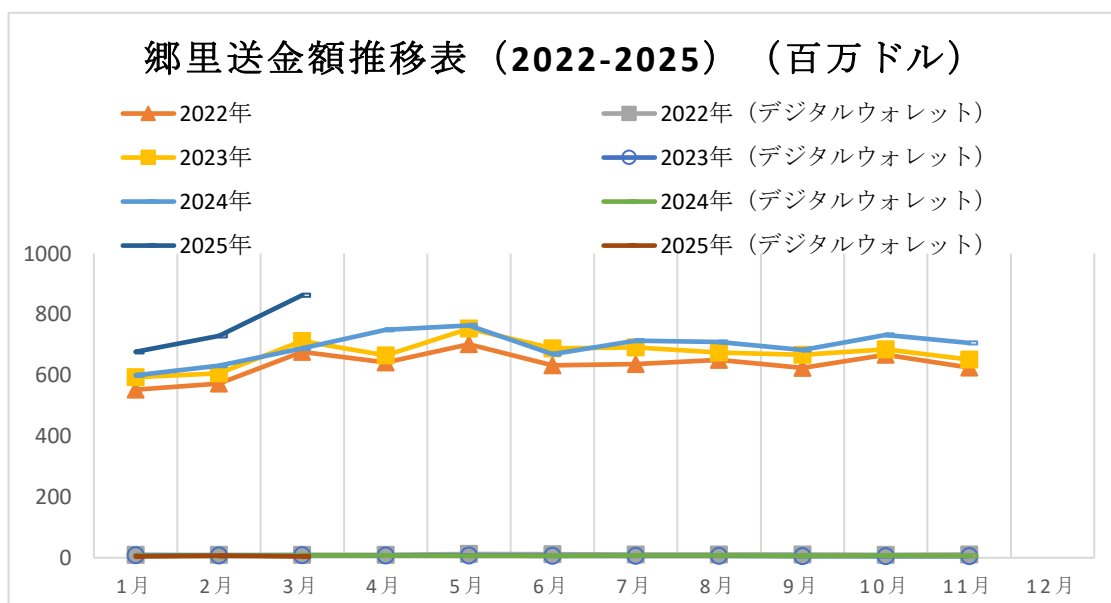
（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

7. 貿易収支額・郷里送金・外貨準備高・公的債務残高

- ・2024 年の貿易収支額はマイナス 95 億 2,513 万ドルとなり、前年より赤字額が 3 億 7,493 万ドル増加した。
- ・2024 年の郷里送金額は 84 億 797 万ドルとなった。そのうち米国からの送金は全体の 91.6% (77 億 692 万ドル) を占めた。



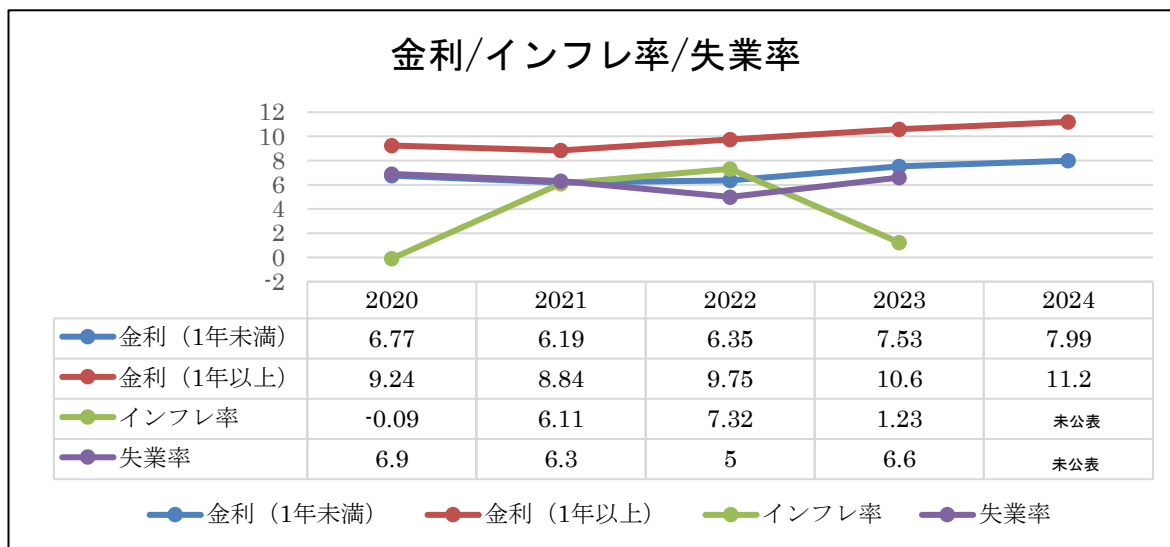
(エルサルバドル中銀データをもとに作成)



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

8. 金利・インフレ率

2023 年のインフレ率はプラス 1.23%であった。また 2023 年の失業率は 5.0%であった。



（エルサルバドル中銀データをもとに作成）